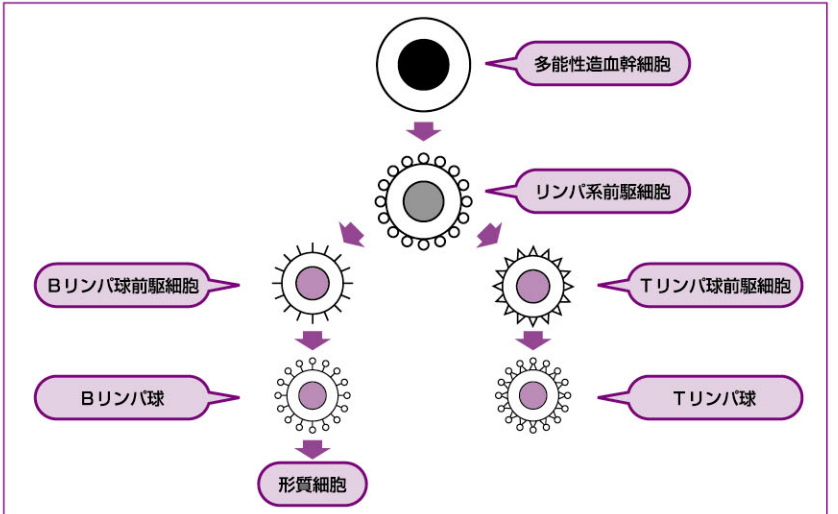
悪性リンパ腫の検査について

日本臨床検査専門医会
下 正宗

■リンパ球は何をしていますか？

血液は血球という細胞と血漿という水分で構成されています。この血球成分の中で、体の防御を担っているものが白血球です。白血球の中では、病原体を食べてしまう貪食細胞が主体を占めますが、これとは別の機構で身体防御を司る細胞がリンパ球です。リンパ球は血液の中で全身を巡回するとともに、リンパ節に多く存在します。また、扁桃腺や小腸と大腸の境目のほか、さまざまな臓器にもリンパ球が集まっている場所（節外性リンパ装置）があります。リンパ節や節外性リンパ装置は、リンパ球が病原体や異物と闘う関所の役割があり、闘いの最中はそこにどんどんリンパ球が動員されて、大きく膨らむことがあります。



どの部分でも腫瘍化します。どの細胞かは表面マーカーでわかります。

■悪性リンパ腫とは？

このリンパ球が腫瘍性に増殖する病気です。

先の病原体との闘いは、反応性増殖とよばれ、闘いが終息すれば病変は小さくなります。一方、腫瘍性増殖は、病的なリンパ球が勝手に増え続けてしまう状態です。抑制されることなくどんどん増え続けます。

■どんな症状が現れますか？

リンパ節が腫れたり、節外性リンパ装置に腫瘤ができたりします。反応性では縮んできますがリンパ腫ではどんどん大きくなります。

■診断はどのようにつけますか？

リンパ節あるいは節外性リンパ装置の組織を採って調べます。これを生検といいます。採取された組織は、細胞をばらばらにして性質を調べるとともに、ホルマリンで固定して組織標本として診断をつけていきます。また、遺伝子や染色体の検査も行われます。悪性リンパ腫は、細胞の性質に関する研究が腫瘍の中では最も進んでおり、腫瘍細胞の由来、性質を調べることにより、より適切な治療方法が選択されるようになっています。

■生検の他に治療前に行うことは？

悪性リンパ腫の全身への広がり具合により治療方法が変わるので、PET、MRI、CTなどの検査のほかにシンチグラム、骨髄の検査などを実施します。化学療法が主体となりますが、放射線療法が選択される場合や放射線療法のみの場合もあります。また、節外性リンパ腫の場合は手術療法が選択される場合もあります。